

第2回運輸交通部会 部会長報告

日 時 2023年9月7日（木） 10:00～11:30

場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

出席者 佐藤副会頭、正副部会長・部会員19名

内 容 懇 談

テーマ「物流の喫緊課題と今採るべき対応策」

講演者 エルテックラボ 代表 菊田 一郎 氏

- 物流を巡る喫緊課題は、物流を持続可能にすること。そのために、「働く人の環境保全」と「地球と社会の環境保全」がキーエメントとなる。「働く人の環境保全」として物流の2024年問題と作業者の人手不足が課題となるが、解決策はホワイト物流を目指すこと。また、「地球と社会の環境保全」として格差是正で穏健な社会と環境破壊抑止・G H G削減が課題となるが、解決策はホワイト+グリーン物流を目指すこと。
- D Xの目的は、U X（顧客体験との価値）とE X（従業員体験）をデジタル技術で圧倒的に進化させるビジネスモデルの大変革で、企業競争力を高めることにより業績拡大に繋がっていくこと。さらに、その取組みを達成することで「地球と人の環境保全（SDGs達成）」に貢献すること。
- ①気候破壊がさらに進展、②子孫が暮らす地球環境を私たちが破壊している、③気候破壊抑止の努力をしない企業は市場・投資家が排除するといった傾向にあり、「できることを全て・今すぐ」を行うことが重要である。そのために、物流でのG H G排出削減・再エネ電力への転換をすることで物流G Xを進めていく。

➤ 物流センターの脱炭素事例として、センコー(株)(貨物自動車運送、倉庫業他)では太陽光発電PPAモデルを採用。屋根スペースを無償提供し、発電設備を所有・管理するPPA事業者が設置した設備で発電し施設所有者が安価で利用できる仕組み。倉庫・運輸事業者が投資ゼロで進めることができる再エネ活用方法の一つ。

➤ 物流DX/EXの具体策として、Scope1(自社)では「トラック車両をEV・FCVに切り替える」「物流(輸配送・保管)の共同化・モダルシフト」、Scope2(自社)では「使用電力を再エネ電力契約に切り替える」「自前またはPPAサービスで再エネ発電設備を導入」、Scope3(他社)では「委託先の物流会社にも以上の推進を要請」などの策が考えられる。

(出典) センコーのニュースリリースより



【工場屋根に太陽光パネル設置】
(岐阜県羽島市)

質疑応答

Q：テスラがなぜ、EVトラック「セミ」を日本で予約販売を開始しないのか。

A：生産体制の問題が想定される。

Q：無人フォークリフトがコンテナヤードにバンニングできる精度が確立されるまで何年掛かると想定されるか。

A：精度は既に構築されており、あとはスピードが課題である。

